

人材育成ゆふいん財団ニュース

今号の主な内容

- 新年のご挨拶
1 ページ
- 後援事業のご案内
2 ページ
- 自主事業の報告
3 ページ
- 財団役員
3 ページ
- 木綿の会 INFORMATION
4 ページ



■発行日/2006年
1月20日 第41号
■発行/
(財)人材育成ゆふいん財団
■発行人/理事長 溝口薫平
■編集責任者/
常務理事 佐藤 晶
■編集/
事務局企画委員会編集部
■住所/
湯布院町川上2863
(クアージュゆふいん内)
TEL85-4748
FAX85-4759
■E-mail/
zd21yufu@dream.ocn.or.jp



『ゆふいんの少年よ、少女よ、おめでとう』

「これといって遊ぶものはなかった。私たちはただ村の辻に屯ろして、棒杭のように寒風に鳴っていたのだ。それでも楽しかった。正月だから何か新しいものがやってくるに違いないと信じていた。ひたすら信じ続けていた。私は七歳だった。あの頃の私のように、寒さに身を縮め、何ものかを期待する心を寒風に曝している少年はいまもいるのだろうか。いるに違いない。そんな少年よ、おめでとう」



今年の大河ドラマ【風林火山】の著者である井上靖さんの詩の一節だ。昔の私達を振り返れば、みな確かに貧しかった。しかし、この詩のように何かしらの夢を持っていたような気がする。頬を赤く染め鼻水を垂らしながらも、無我夢中で遊んだ。遊んで遊んでの帰り道、夕陽の陽射しを浴びながらなんとなく漠然と夢のようなものを描いていた。将来に対して憧れのようなものを抱いていた。

現在はどうだろう。物や機会に恵まれ欲するものは容易に手に届く。豊潤な時代といってもいい。しかし今の子供にも今それぞれの夢はある。絶対にある。私はそう確信している。

「人材育成ふるさと財団」は平成3年に設立して15年以

上が過ぎた。当時の子供達が成人を過ぎた。「財団」は次の時代に入ったと言ってもいいのかもしれない。行政など世の中の仕組みも大きく変わってきている。だからこそ、「財団」の地域を愛し地域を考える人材育成の大切さがより求められているのかもしれない。

また、夢を抱いている子供達の信頼に応えねばならない。「財団の旅行で、湯平、塚原、川西の子供と友達になれた。嬉しかった。」由布院の子供の旅の感想だ。子供達に夢を描く機会を与えながら、故郷のつながりをより大切にしていきたい。新しい年だ。ゆふいんの子供達の夢に想いを馳せながら、私は高らかに叫ぼうと思う。「ゆふいんの少年よ、少女よ、おめでとう」

甦れ 豊かな森林 山桜日本一の 里づくり

もしかしたらテレビや新聞でこの企画を聞いたことがあるのではないのでしょうか。

おおいた森林組合からの企画において、当財団の溝口理事長が企画実行委員の一人に任命されましたので企画内容とともにお知らせいたします。

《受付窓口》

由布市湯布院庁舎

市民サービス課

電話 84-3111

由布院温泉観光協会

電話 85-4464

企画内容

おおいた森林組合のエリアには、私たちが住んでいる湯布院を含め、周囲を深い緑に包まれた山々が連なる豊かな自然と、美しい景観に恵まれた地域です。

しかし、その山々の現状は、林業従事者の高齢化や担い手不足等の問題から、放置林や荒廃林が増え、自然災害の増加の原因や周囲の景観を著しく損なう結果となっております。また、世界的にも地球の温暖化や生活環境の破壊、異常な気象災害の発生が問題になっています。

そこで平成18年度より、大分県が森林環境税を導入し、県民参加の下で災害防止などの公益的機能の高い森林づくりを進めることとなりました。

おおいた森林組合は、その模範林として、森林環境保養林(里山保全)整備事業を導入し、県内外の皆様や企業・団体の皆様のご協力をいただき

ながら荒廃が進む林地に順次山桜やもみじなどの広葉樹を植栽し、域内至る所に、災害に強く、地域の人々が真に豊かな森を実感し、新緑をはじめ花や紅葉などで四季折々に楽しめ、さらに子々孫々に亘って限りない恩恵を受けられるような新たな森林づくり『甦れ豊かな森林・山桜日本一の里づくり』を進めます。

現在、植栽される森林の個人・団体オーナーを募集中です。詳しい内容はお問い合わせください。

ぜひ、変わりゆく自然と一緒に楽しんでいきましょう。

(由布院盆地から倉木山を望む)



平成17年6月10日に成立された『食育基本法』では、子ども達が豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けていくためには、何よりも【食】が重要だと言っています。日々の忙しさに追われて【食】の大切さを忘れがちになっていませんか？

栄養が偏ったり、不規則な時間帯での食事、そして家族で囲む食卓。

体の健康はもとより心の健康を大切に考えていくためにも、美味しい安全な食べ物を口にする、楽しく食事をするなど、自分のため、家族のために、少しずつ取り組んでいきませんか？

ぜひお時間のある方は、足をお運びください。

講演会のご案内

風の食卓

～由布市の
食育について考える～

月日：2月12日(月・祝)

時間：13時30分～

場所：湯布院公民館

参加料：500円

【講演】

- *「食卓について」山本益博氏*
- *「噛み合わせと食育」中島幸一氏*

【パネルディスカッション】

門上武司氏・由布市長
地元の食に関わる方々

【山本益博氏(料理評論家)】

1982年に出版した「東京味のグランプリ」以来、国内外での料理評論の活動を広げる。『美味しいものを食べるより、ものを美味しく食べる』をモットーにサークル「ア・ターブル99」を主宰し、食卓を共にする時間を楽しむ《食時會》や生産者を講師に招いての食材塾を開催している。

【中島幸一氏(歯科博士)】

『歯の病気は全身の健康と深い深い関係がある』と考え、体全体の健康ばかりでなく、知能形成やボケ防止など、人間の幸せの根幹に関わる問題として歯科治療に取り組んでいる。

ウェルカム・デンタル・クリニック院長(福岡)

【門上武司氏(料理評論家)】

料理雑誌「あまから手帖」編集主幹・(株)ジオード、(有)門上武司食研究所代表取締役、スローフードジャパン副会長。現在執筆、編集業務を中心に、プロデューサーとして活動。国内を旅することも多く、各地の生産者たちとのネットワークも広がっている。食に携わる生産者、流通、料理人、サービス、消費者を繋ぐ役割果たす存在。



畜産センター所長の河野浩二さんよりお声をかけていただき、11月18日にわらこづみ作りをしました。

今回は4基しか作ることができなかつたため、8月に一緒に韓国に行った『子ども使節団』のメンバーと由布院小学校児童クラブの子ども達に集まっていたいただきました。

『わらこづみ』 作りました！



指導してくださった方は、穴井三敏さん、木村力さん、畜産センターの河野所長の3名です。ありがとうございますました。

まずはじめに河野さんから、なぜわらこづみを作るのかの説明をしていただき、いよいよ作業開始です！

雨が降っても湿らないようにしっかりと結んでいきます。横から「もうちょっと力入れな、雨が入り込むで」と指導を受けつつ、みんな必死です。だんだんと『家』のようなこづみが出来上っていくうちに、お手伝いの大人の方が「昔はこの中に入り込んだりして遊んだなあ」と懐かしむ一幕も。最近はそのような光景が見られなくなりましたね。

最後に指導の方が上から笠

をかぶせて完成！少々歪な形ではありますが、このまま3月まで乾燥させれば、牛のエサになります。

ぜひ、子ども達の力作を見てください。場所は秀峰館からコスモスロードに入ってすぐ左側の4基です。

こうして、昔の農村風景が残ることはとても素敵なことですよ。最近では田んぼの土を踏んだことのない子ども達もいるようです。少しずつ、外を走り回る子供の姿が増えていけばいいと思います。

お手伝いをしてくださった方々、ありがとうございます。子ども達も、畜産貢献お疲れ様でした。この糞を食べた牛は立派なゆふいん牛になってくれるはず！楽しみです。

ゆふいん財団 あ・れ・こ・れ



財団法人人材育成ゆふいん財団には、理事10名、評議員15名の役員が一つの核となって事業を進めています。しかしながら、この25名がどのように事業を企画・実行しているのかという実態は、なかなか知られていません。

今回はこの場をお借りして、事務局の目線から役員の方々にスポットを当ててみました。

役員の方々は理事会・評議員会という形で、ボランティアにも関わらず年に4～5回の会議に出席してくれます。しかし、実はその会議だけで全てが決まるわけではありません。

事業計画は年度が始まった時点で、この財団ニュースを通して湯布院地域に住む方々にお知らせしていますが、それを実行していくためには綿密な計画が必要です。だからといって、理事会や評議員会が簡単に開催できるわけではありません。そこでどうするか！？

実は、事務作業を手早く進めていけるように『事務局企画委員会』という名の会議を何度も開いているのです。そこでしっかりと内

容を煮詰めていき、評議員会で提案し、理事会で議決していくという素晴らしくスムーズな段階が組み立てられているのです。

もし、皆様の中に叶えたい夢や企画がありましたら、ぜひ、お近くの役員さんに相談してみてください。もっと身近なところで人材育成ゆふいん財団を活用していただきたいと思います！

(役員名簿は4ページをご覧ください)



「真似られる大人になるために」 大澤直彦



「学ぶ」の語源は「真似ぶ」、つまり「真似る」にあるという。がんばってああいうふうに成りたい、こういうふうにしたい、と真似る相手や暮らし、環境があってこそ、人は学ぶ。

(理論(識者コラム)「学ぶ」は「真似る」から／役重真喜子／大分合同新聞060522)

私が思う人材育成のカタチです。「子どもに真似られる様な大人、まちでありたい」が私の暮らしの目標。最近の子どもの真似たいヒトと言え、イチローやナカタ、ナカマユキエ・・・それでもいい。ゆふいんまつり実行委員会、新町青年会に所属し、活動する中で次世代を担う子どもたちにまつりやイベントの原風景を残すために奮闘する日々が続きます。

ヒト、モノ、コト、カネ・・・という限りある資源の中でその原風景を創らないといけない。とかく、カネやゲンキ・キモチが足りない時代でもある。そこでその他の要素をうまく活用しながら、そういった原風景を如何に創り出すかが大きなテーマとなる。

まちのカネとアセを結集し、それをパワーの源にし、コトにつなげる。そんな人材育成財団の主旨に賛同し、会員となり、真似られるようなアセをかきたいと志願しました。片親で育ち、その中で勉強をし、そんな自分も離婚を経験し、それでも仕事や様々な活動に精進する今の自分がある。すべては真似られる大人になるためです。

寄附のご報告

特別ご寄附をいただきました。

香典返しとして
井尾 孝則 さまより
100,000円

ありがとうございました。
財団運営に有意義に活用させていただきます。

【編集後記】

新年、あけましておめでとうございます。去年の4月、財団の事務局に着任して以降、怒涛の日々を過ごしてきました。(怒涛か?)今年も、色々なことに挑戦していきたいなあ・・・。何ができるのか、はっきりとしたものはこれから少しずつ探していこうと思います。もし皆様の周りで面白い事業や出来事がありましたら、お近くの財団役員、もしくは事務局にそつと耳打ちをしていってください。できるだけご協力できるように、事務局もパワーアップして頑張ります!本年もよろしく願っています。(役員に関しては、下記の名簿をご参照ください。) 事務局*後藤

~WOMEN POWERが生み出す 由布院の味、ふるさとの食~ 『陽だまり食堂』

駅前五叉路、鳥居の横のJAゆふいん本所に【陽だまり食堂】という大きな看板が掲げられました。以前からあった農産物直売所をリニューアルし、新しくオープンしたもので、農村女性グループの方々が運営に当たっています。

こじんまりとした空間に元気の良い女性の声が響きます。「いらっしゃいませー」「だんご汁、美味しいですよ」と、にこやかな会話。全てにエネルギーがみなぎっている感じがします。そういえば、昔はこんな空気が町のあちこちで感じ取れたような気がします。

「暖かいところに寄っち、温かい会話を交わしちから、美味しいものを食べちよくれ。」ふるさとの味を、ふるさとの農産物を調理して、いろんな人に食べてもらいたいと始まったこの食堂。「朝準備ができてから、お客さんが途切れるまでは開けちよるで」と女性の優しさもふんだんに持ち合わせた、まさに人と食と土地との「ふれあい食堂」です。地産地消を農家の女性が実践し、由布院の先頭を突っ走っている姿は頼もしくもあります。ぜひ、次の世代にその技と知恵と元気を伝えていってほしいものです。

【役員名簿】

理事長	溝口 薫平
常務理事	佐藤 晶
理事	時松 辰夫
〃	金子 裕次
〃	田中 明美
〃	足利 結佳
〃	大島 喜久枝
〃	岩男 淳一郎
〃	高倉 忠雄
〃	竹内 正敏
評議員議長	峰 親則
評議員	中西 ちせ
〃	大隈 マスミ
〃	阿部 尚志
〃	河野 雄一
〃	麻生 時寿
〃	吉野 博美
〃	吉田 曙美
〃	佐藤 祥子
〃	田代 教二
〃	佐藤 春世
〃	太田 豊美
〃	松村 真知子
〃	霜野 圭一
〃	衛藤 文和